

令和5年度監査報告書

令和5年度の会務および財務執行状況について、特定非営利活動法人 日本核医学技術学会定款第4章第16条第4項および第9章第48条の規定に基づき、監査を令和6年9月28日(土)に実施したので報告する。

1. 監査方法

1) 業務監査について

理事会に出席し、担当理事による各委員会等の会務報告および審議状況を聴取するとともに、会議議事録および関係書類を閲覧し、会務全般の執行状況について監査を行った。理事選挙ならびに理事長選挙の開票ならびに集計作業に立ち会った。

2) 会計監査について

令和5年9月1日から令和6年8月31日までの財務処理について、担当理事より財務執行状況を聴取するとともに、収支計算書・会計帳簿・銀行通帳および領収明細書等の関係書類を審査し、財務処理状況について詳細に監査を行った。

2. 監査結果

1) 業務監査について

理事会開催については、役員の移動時間の短縮ならびに経費削減を理由に、今年度もWeb方式にて会議が行われた。

事業の執行状況については、定款に則り事業計画が順調に実施されていることを認める。業務の適正を確保するために必要な体制の整備等については理事会の決議が相当であることを認める。

各選挙の開票、修正作業については厳正に行われたことを認める。

理事長ならびに各理事、事務局関係諸氏のご尽力に感謝する。

2) 会計監査について

収支計算書の記載内容は会計帳簿と一致し、本学会の収支状況及び財務状態が正しく表示されていることを認める。

財務処理においては、計画通りに適正に執行されていることを認める。

3. その他

新型コロナウイルス感染症拡大を機に、理事会はweb会議方式が主流となっており、対面式会議に比べて理事の会議出席の移動時間や経費の削減が図られることから、次年度以降も積極的にWeb方式による会議開催を推奨する。

他学会ではWeb方式による学会活動が盛んに行われている傾向にあり、本学会においても会員向けのwebコンテンツの充実を図っていただきたい。

ダイバーシティへの取り組みとして女性会員の活躍の機会を進めていただいている。本学会においては更に、男女共同参画の他に若手研究者へのサポートなど、様々なフェーズにおいてダイバーシティ実現に向けた活動の取り組みを積極的に進めていただきたい。

本学会の会員数増加に向けた取り組みが喫緊の課題となっている旨を昨年度の監査報告でも述べさせていただいた。今後、スピード感を持って実効性を高めていただきたい。

令和6年10月5日

特定非営利活動法人 日本核医学技術学会

監事 菊池 敬



監事 近江 幸紀

